令和８年度大谷場中学校だより
おおやば
第5号
令和８年８月２６日（水）発行

学 校 教 育 目 標
「より高く、より広く、より深く、より強く」
自 立・共 生・錬 成

さいたま市立大谷場中学校
〒336-0016 さいたま市南区大谷場 2-13-54 TEL882-9962
HP:https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/ MAIL:oyaba-j@saitama-city.ed.jp

この夏休みで思ったこと

校 長 山口 泰由

長い夏休みが終わり、生徒たちの元気な挨拶が校内に響き渡り、学校に活気が戻ってきました。大きなトラブルもなく、無事に２学期が迎えられたことを大変嬉しく思います。

この夏、大谷場中生の活躍が数多くみられました。学校総合体育大会では、陸上競技部、女子バレーボール部、女子ソフトテニス部、水泳の個人種目及び硬式テニスで県大会に出場しました。中でも、水泳では２名が関東大会に出場し、陸上女子砲丸投で関東大会第４位となった２年生女子は、山口県で開催された全国大会への出場も果たしました。文化部では、吹奏楽部が中央支部大会にて素晴らしい演奏を披露し、Ａの部で銅賞、Ｄの部で銀賞、美術部は市美術部展において、１年生女子が教育長賞、２年生女子が特別優秀賞を受賞、科学部は、２年生２名が青少年宇宙科学館での若田名誉館長杯ローバーロボット大会 2026 ビギナーの部で優勝しました。その他にも、３年生女子が「さいたま市立中学校等国際交流事業」でニュージーランドへ派遣され、２年生女子が「広島への中学生平和学習派遣事業」に市の代表の一人として参加しました。さらに、１学期から準備を重ねた学校代表生徒による「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」への参加、学校代表４名のうち２年生２名が「さいたま市英語弁論暗唱大会」へ本大会出場を決定するなど、多方面で活躍してくれました。

また、身近な地域に目を向け、自治会が主催する盆踊り大会や、公民館での子ども体験教室などのボランティア活動に参加してくれた生徒も多くいました。地域の方々からは、「地域の活力につながる」と感謝と御礼の言葉をいただき、大変誇らしく思いました。

そのような中、今年の夏は、７月の熊本地震、そして８月の千葉県を中心とした豪雨災害により、多くの方々が被害を受けられました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

実は、私の大学時代の友人が震源地に近い熊本県甲佐町に住んでおり、家の壁が崩れたり、家具があちこち倒れたりした写真を目にしました。しばらくの間、断水が続いたそうですが、水が出るようになった地域の知人がお風呂を使わせてくれたり、畑でとれたスイカを届けてくれたりして、「寝る場所もあるし、ご飯も食べられるから大丈夫、頑張るよ」と SNS を通じて連絡がありました。それを見て、「蛇口をひねれば水が出る」「スーパーやコンビニに行けば、食料が手に入る」という「当たり前の生活のありがたさ」を改めて感じました。今なお、不自由な生活を余儀なくされている方々が、一日も早く平穏な日常を取り戻されることを願っております。

ある日突然、身に降りかかる災害。９月１日は、1923 年(大正 12 年)に関東大震災が発生した日であり、暦の上では二百十日、台風シーズンを迎える時期です。また、1959 年(昭和 34 年)９月の「伊勢湾台風」での甚大な被害を契機に、1960 年(昭和 35 年)、災害に対する心構えなどを育成する目的として、９月１日が「防災の日」と制定されました。さらに、1982 年(昭和 57 年)からは、防災の日を含む１週間(８月 30 日から９月５日)を「防災週間」とし、防災訓練等が実施されています。

先日、大谷場地区に大規模地震が発生した場合の被害状況について生成 AI に質問してみたところ、震度６弱から６強程度の強い揺れが想定され、家具の転倒や建物の損壊・倒壊、古い木造住宅やブロック塀の崩壊、局所的な液状化現象や地盤沈下、住宅密集地における火災の延焼、狭い道路の閉塞による消防・救急活動の遅れ、さらには南浦和駅周辺での帰宅困難者への対応が想定されるとのことでした。

大地震が発生した際、中学生にできる最も大切なことは、まず自分の命を守ることです。そのうえで、小さな子どもや高齢者の避難支援、避難所での手伝い、情報伝達などを通して地域を支える力となることができます。本校でも、本日は竜巻発生を想定した訓練を実施し、11 月には南区避難所運営訓練の実施が予定されています。こうした機会を通して、防災について自分事として考え、地域の一員として、互いに支え合うことのできる大谷場中生であってほしいと願っています。